一般社団法人日本医療薬学会
2022 年度第 5 回定例理事会 議事録

一.　開催日時：　2022 年 11 月 1 日（火）　13 時 00 分 ～ 16 時 30 分

二.　開催場所：ハイブリッド開催（事務局会議室＋Zoom を利用したウェブ会議）

三．出席者
会　頭：山本 康次郎
理　事：石澤 啓介、富岡 佳久
以下の出席者は、Zoom を利用したウェブシステムにより参加した。
副会頭：石井 伊都子、寺田 智祐、百瀬 泰行
理　事：池田 龍二、伊藤 清美、齋藤 秀之、佐野 俊治、関根 祐子、田﨑 嘉一、豊見 敦、中村 敏明、花輪 剛久、濱浦 健司、宮﨑 長一郎、村木 優一、矢野 育子
監　事：奥田 真弘、望月 眞弓、安原 眞人
顧　問：武田 泰生
陪席者
年会長：三浦 昌朋 （第 33 回年会）
事務局：星 隆弘、姫嶋 直子、針生 裕子、田中 結寿、大湊 宏味
欠席者
理　事：佐藤 淳子、
顧　問：山本 信夫、五十嵐 邦彦、和田 一夫

四．議長：山本 康次郎

五．会議の成立
定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 19 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果
１．2022 年度第 4 回定例理事会議事録の確認
議長より、2022 年 8 月 29 日に開催された 2022 年度第 4 回定例理事会議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

２．第 14 回臨時社員総会議事録の確認
議長より、2022 年 9 月 24 日に開催された第 14 回臨時社員総会議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があっ

た。

３．協議事項

(1) 利益相反マネジメント規程の改正

濱浦理事より、利益相反マネジメント規程及び運用細則の改正について、①運用細則を本規程に統合し細則を廃止すること、②利益相反の申告対象者を全ての委員会委員に拡大すること、③当該申告は役員・委員への就任時及び毎年１回とすることを明記することが説明された。続いて、会頭より、利益相反マネジメント委員会の編成について、本マネジメント委員長の利益相反の申告状況を確認するため総務委員長に参画いただく体制を敷くことが説明された。協議した結果、本改正及び委員会編成ともに了承された。

また、望月監事より、当学会誌の査読プロセスにおいて、論文投稿システムより査読者に発信される依頼メールの文書中に、査読対象の投稿論文との利益相反状態に鑑み査読の諾否を判断していただく旨の記述を加えるべきではないかという意見があった。本件について協議した結果、定型的且つシステマチックに運用できることが望ましいという意見に集約し、具体的な運用については医療薬学誌及び JPHCS 誌の両編集委員会で検討し具体的な対応を図ることとなった。

(2) 医療薬学学術委員会及び小委員会運営規程の改正

齋藤理事より、医療薬学学術委員会及び小委員会運営規程の改正について、研究活動申請書及び報告書などとの文言の整合性を図るとともに、医療薬学学術委員会委員長との情報共有、研究費の支出管理、Web 会議に対応した通信費の取り扱いなどの明確化を図ったことが説明された。協議した結果、本改正は了承された。

(3) 2023 年度医療薬学学術委員会の調査研究課題の募集

齋藤理事より、2023 年度の医療薬学学術委員会の調査研究課題の募集要綱を基に、前年度との相違点として「医療 DX 推進に関する活動、(例) 電子処方箋に関する調査研究、電子化された添付文書の活用など」を新たな研究課題として追加し、公募募集を進めることが説明され、本件は了承された。

(4) 学術関連賞の各選考規程・内規の改正

石井副会頭より、学術関連賞選考委員会で検討した日本医療薬学会賞、学術賞、Postdoctoral award の各選考規程の改正に係る次の説明があった。

①日本医療薬学会賞

・選考規程：応募資格となっている「医療薬学分野で極めて優れた研究」という「極めて」の部分が分かりにくいため当該文言の削除且つ本学会の発展に貢献したことを加えること。

・選考規程及び内規：授賞対象者の会員歴を継続 25 年以上から 10 年以上に変更すること。

②学術賞

・選考規程及び内規：授賞対象者の会員歴を継続 10 年以上から 5 年以上に変更すること。
③Postdoctoral Award
・選考内規：応募書類に「学位取得後論文の概要、要旨（ある場合のみで可）」を加える。また添付書類に「学位取得後論文の別刷（2 報以内）」を追記すること。
上記の 3 件を協議した結果、②及び③は了承されたが、①の選考規程の変更については、他の学会賞と明確な差別化を図るために「極めて」を残すことを再考することとし、再度、学術関連賞選考委員会で協議した上で、理事会メール審議を進めることとなった。

(5) 2023 年度学術関連賞の募集
石井副会頭より、2023 年度の学術関連賞（日本医療薬学会賞、学術賞、奨励賞、postdoctoral Award）の各募集要綱に関する説明があり、協議の結果、日本医療薬学会賞を除いた各要綱が了承され、11 月から来年 4 月 10 日までの期間で応募を受け付けることとなった。なお、日本医療薬学会賞の募集は、前議題のメール審議が確定した後に募集を開始することとなった。

(6) 2023 年度海外研修派遣員の募集要綱
矢野理事より、2023 年度海外研修派遣員の募集要綱について、2022 年度とほぼ同一の要綱をもって 11 月から来年 3 月 10 日を期限として募集を進めることが説明された。協議した結果、本件は了承された。

(7) 年会長候補者選任細則の改訂
富岡理事より、2022 年 4 月以降の組織編成の変更に伴い改称となった委員会名称の適用を含めた記載整備を目的とした本細則の改正に係る説明があり、協議した結果、了承された。

(8) 第 37 回年会長候補者（2027 年開催）の募集
富岡理事より、第 37 回年会長候補者（2027 年開催）の募集要綱に係る説明があり、協議した結果。了承された。11 月より来年 1 月 31 日を期限として応募を受け付けることとなった。

(9) 各委員会の編成、第 6 回フレッシャーズ・カンファランス実行小委員会の編成
・年会長候補者推薦小委員会の編成
富岡理事より本小委員会の編成について、委員長は富岡総務委員長、委員として石澤財務委員長、寺田・百瀬両副会頭、矢野理事、三浦 33 回年会長の 6 名での構成とする方針が説明され、本件は了承された。
・薬系学会連携特別委員会の編成
議長より、日本薬系学会連合体の検討に対応する特別委員会の編成について、委員長は山本会頭、委員として石井副会頭、アドバイザーとして奥田・望月両監事をもって編成する方針が説明され、本件は了承された。

・第 6 回フレッシャーズ・カンファランス実行小委員会

伊藤理事より、来年 6 月に開催予定の本カンファランスの実行委員会として、実行委員長は内田まや子氏（同志社女子大学教授）とし、全国各地に在籍する全 17 名をもって編成されることが紹介された。

(10) 出版図書「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂

議長より、本学会の出版図書である「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法（5 分冊）」（以下、本書）は、第 2 版の出版から約 4 年半が経過していること、本書に掲載している診療ガイドラインなどの最新情報を反映しきれないため内容の陳腐化等に係る指摘もあること、そのため本書の改訂等を含めた検討として、例えば第 2 版を更新するもの、専門薬剤師認定試験に有益なもの、専門薬剤師の養成に資するものなどが考えられるため、本件については広報・出版委員会担当の中村理事に検討の要請が行われた。また、今後の対応として、まず各専門薬剤師制度の委員長らを交えて専門薬剤師制度での活用方法などに関する意見を確認することから始め、具体的に編纂作業を進める際には、例えば新たに小委員会等を組織化することも含めていただきたいという方針が説明された。協議した結果、本対応方針は了承された。

(11) 医療薬学誌の投稿規定の改正

田崎理事より、医学系研究の倫理指針の改訂を受け、医療薬学誌の投稿規定に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」及び臨床研究法に該当する研究を実施するケースの取り扱いなどを変更・追記するための改訂に係る説明があった。協議の結果、本改訂は了承された。

(12) JPHCS 誌の APC 変更に係る対応

村木理事より、JPHCS 誌の出版社から 2023 年 1 月投稿分から適用される APC 費の値上げ（値上額：£75、値上率：106.3%）の連絡を受けたことが説明された。また、当該値上げに伴う本学会負担と著者負担の割合（2:1）は現状を維持することが確認され、了承された。

(13) 日本薬系学会連合の設立と参加に係る検討

奥田監事より、10 月中旬に開催された『第 2 回「日本薬系学会協議会（仮称）」設立に向けた準備会』（10 月 17 日開催）の報告として、本準備会への参加意思を表明した 15 団体による第 2 回目の会合を開催し、①正式名称を「日本薬系学会連合会」とすること、②定款に定める目的と事業を検討したこと、③入会を働き掛ける対象学会の選定と入会案内の原稿を検討したことが説明された。続いて、連合会発足の前段階となる「日本薬系学会連合設立委員会」への参加意思の確認が 11 月 18 日までとなっていることや今後のスケジュール計画などが説明された。協議した結果、本学会は当該設立委員会への参加を決定した。

(14) 日本薬剤師会からの疾患別 e-learning コンテンツへの作成協力依頼への対応

議長より、日本薬剤師会より当学会に、研修用の e-learning コンテンツ「脳卒中」

の作成協力依頼を受けたこと、また本件への対応を薬物療法集中講義企画・運営小委員会委員長の樋口先生に担当いただくことへの内諾が得られていることの説明があり、協議した結果、本依頼を引き受けることとなった。

(15) 大学機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼への対応

議長より、大学改革支援・学位授与機構より、大学機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼があり、本件については山本会頭を推薦することとなった。

(16) 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」

前回の理事会でも取り上げられた日本学術会議による「学術の中長期研究戦略」の公募への対応として、今般、継続的な協議を進め、「医薬品・ワクチンに関するリテラシーの向上」をテーマとする学術研究の実施を念頭に、日本薬学会との連携や石井副会頭と佐藤理事による意見調整を図った上で、具体的な応募事項を取りまとめる方針となった。

(17) 第 15 回定時社員総会の開催計画案（2023 年 3 月開催）

事務局より、第 15 回定時社員総会の開催日程と形態について、2023 年 3 月 18 日（土）の午後に長井記念館ホールにて開催したいことが説明され、協議した結果、本件は了承された。

(18) 前年度会費遡及納入に係る嘆願への対応（1 件）

宮﨑理事より、前年度会費遡及納入の嘆願 1 件についての説明があり、協議した結果、本件の嘆願を了承することとなった。

(19) その他

事務局より、第 33 回年会で各委員会からの演題登録を募るため、次回の理事会までに各委員会での検討を進めていただきたい旨の連絡があった。

４．報告事項

(1) 第 32 回年会について

山本 32 回年会長より、現在行っている第 32 回年会のオンデマンド配信の終了日及びその前日に視聴アクセスの集中によるトラブル事例が発生したため、配信期間（視聴期間）を 11 月 14 日まで延長していることが説明された。また、宮崎理事より、当年会では要旨集が配布されず不自由であったため、次回以降の年会では要旨が容易に閲覧できるようにしていただきたいという主旨の意見があった。山本年会長より、最近の年会ではアプリや Web 要旨集を利用していたが、第 32 回年会では費用面での制約があったためアプリの利用ができなかったことが説明された。本件は、年会運営実行小委員会に持ち帰り対応を協議することとなった。

(2) 第 85 回（山形）、第 86 回（神戸）公開シンポジウム開催報告

伊藤理事より、第 85 回（山形）、第 86 回（神戸）公開シンポジウムの開催報告書を

基に、実施概要が報告された。

(3) 後援依頼への回答（2 件）

議長より、以下の後援依頼申請を承認したことが報告された。

・第 5 回日本在宅医療連合学会大会

・第 32 回オンコロジーセミナー（NPO 法人がん医療研修機構）

(4) 委員会開催報告

次の各委員会の議事録を基に、各委員長より議事概要が報告された。

医療薬学学術委員会、学術関連賞選考委員会、がん専門薬剤師認定委員会、臨床研究推進委員会、JPHCS 編集委員会、医療薬学編集委員会、フレッシャーズ活性化委員会、医療薬学教育委員会、広報・出版委員会、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 30 分に閉会を宣言し、解散した。